巻頭言

戦後レジームからの脱却

会長　山崎　學

敬愛していた安倍晋三先生が逝去されてから１年半が経ったが，僕の心の中ではまだ整理がついていない。時に放映される国会での厳しい目つきで相手を追い詰める精悍な顔，一方でおちゃめな顔を満面に浮かべながら余裕しゃくしゃくと答弁する笑顔を見ていると，会食の場やゴルフ場で我々を楽しませてくれた良き思い出が走馬灯のように駆け巡る。

安倍晋三先生がライフワークとして取り組んでいたのは日本国憲法改正を基本とした戦後レジームからの脱却であると思っている。しかし，先生亡き後は改正論議の勢いは失せて口先だけの論議に逆戻りした感がある。この間にロシアによるウクライナ侵攻，ハマスによるイスラエル襲撃，紅海におけるフーシ派のタンカー襲撃といった事件が起こり，国際問題はますます複雑化してきた。戦後GHQの謀略により日米安保協定の下の飼い殺し状態で確固たる国家意識を持たせない見せかけだけの民主主義にだまされ，今日に至ってしまった。こうした中でウクライナ侵攻はぬるま湯に浸ってきた先進国に大きな意識変革を求めはじめている。憲法九条で70年間日本が平和だったとほざく輩は，米国に巨額な国家予算を吸い上げられて米国の植民地として平和にありついてきたありがたみも分からず反米親中を叫ぶ。

世界中でエネルギー不足，食糧不足による物価高騰で貧富の差が拡大し，生活不安に対する危機感は結果として保護主義的な世論を形成することになり，西欧諸国で右翼的政権が誕生するようになった。ヨーロッパ諸国はロシアの全体主義的な侵略に怯えてNATOをつくったが，当初目標として約束したGDP２％の拠出を渋り，予算の４分の３を負担しているアメリカのトランプ大統領にNATOから手を引くと脅かされてフランス，ドイツ，オランダといった大国をはじめとした半分の国が渋々２％の最低ラインを拠出している体たらくの中でウクライナという大きな荷物を抱え込んでしまった。我が国の報道では一方的にロシア悪者論に終始しているが，かつてウクライナ自体が国家ぐるみの汚職で財政破綻し，旧ソビエト連邦の武器庫であったウクライナを武装解除して，軍事核兵器，長距離弾道弾をロシアに移して国家的財政危機を乗り越えた歴史がある。ベラルーシのミンスクで行われたロシア，ウクライナ，ドイツ，フランス首脳によるミンスク合意後も2014年のロシアによるクリミア半島占領に始まったウクライナの親ロシア派占領地域における内戦がロシアの不信感を招いて今回の侵略戦争に発展したという分析もある。ロシアから天然ガス，石油を大量に輸入している中国をはじめとして，ロシア産兵器に依存しているインド，イスラエルといった国々の微妙な立ち位置がこの問題の解決を長引かせている。弱

腰のバイデン政権はアフガニスタンからの撤退という失敗をしでかしてさらに混乱に拍車をかけた。

こうしたアメリカ政府の弱腰はドル本位制で世界経済を抑えてきた基軸通貨としてのドルの価値を大幅に下げることになり始めている。親米派から反米派になり，基軸通貨を変えようとして葬られたという噂のあるリビアのカダフィ大佐，大量兵器秘匿の疑いをかけて亡き者にされたイラクのフセイン大統領といった歴史の中で，イランは原油を元決済にし，ロシア産原油をルーブル決済，10ヵ国に膨れ上がったBRICS＋も金本位制による新しい共通基軸通貨を2024年度末から試験運用させるといった報道がなされている。

世界に有事の緊張が走る中で自己の保身に走り，派閥推薦で総理になったのに裏金問題・派閥解体などという本筋でない話にすり替え，国民に過大な増税を押し付け，空想に近い日米安保条約にすがり，能登半島復興を後回しにして，アメリカのウクライナ復興支援を肩代わりさせられている現政権を安倍晋三先生は泉下で歯ぎしりして悔しがっているに違いない。